

## 1 研究主題

「論拠ある指導から、社会につながる力を育む」  
～指導すべき課題を明確にした自立活動の研究～

## 2 研究の概要について

令和4年度の研究は、自立活動の6つの区分とそれらを相互に関連づけて柔軟に指導できるための研修を行い、特別支援教育や障がい特性など総合的な知見を広め、教職員の専門性を向上させることを目的に研究を推進した。

今年度の重点教育目標「児童生徒一人一人の障がいの状態や特性を的確に把握し、論拠をもった教育活動を推進する」を受け、前年度の理論研修を踏まえた上で、本校小中学部、高等部、訪問部、寄宿舎、分校小中学部、高等部の全18グループに分かれ、グループ毎に事例とする児童生徒を抽出し、自立活動の指導の実践に取り組んだ。複数の指導者で『特別支援学校教育要綱・学習指導要領解説自立活動編』にある『実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ図の例（流れ図）』を使い、長所や良さを含めたアセスメントを丁寧に行うことで、指導すべき課題が整理された。段階指導の根拠が明確になり、職員間で統一した指導や成果を確認し合うことで、論拠を持った指導に繋げることができた。また、障がいに基づく種々の困難さを改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことで、各教科等の学びが深まり、将来自立して社会参加する力を育てることにつながるため本研究を推進した。

## 3 研究の実際

### (1) 研究の方法と実際

『特別支援学校教育要綱・学習指導要領解説自立活動編』にある『実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ図の例（流れ図）』（以下『流れ図』）を使って指導すべき課題を明確にした自立活動の研究に取り組んだ。5月の研究日は『流れ図』の使用について合同研修を行った。その後は、月に一度グループ毎の研究日を5回設定した。グループによっては研究日にグループ研究をすることが難しいグループがあり、別途研究日を設けるグループがあった。また、5回のグループ研究では、研究を終えることができずに別途研究日を設け研究に取り組むグループもあった。

### (2) 研究の内容

主な内容は以下のとおりである。

		本校	分校	主な研究内容	具体的取り組み
推進計画		4/20（水）		<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の全体提案</li> <li>推進計画と流れ図について説明を行った。</li> </ul>	
流れ図研修		5/18（水）		<ul style="list-style-type: none"> <li>流れ図の作成について研修会（合同研究）</li> </ul>	①架空の事例を基に、グループ毎に流れ図の作成について研修を行った。
グループ研究	1	6/21（火）	6/22（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>流れ図の作成（別紙参照）</li> </ul>	①対象児童生徒決める。 対象児童生徒は、来年度の実践研究の対象となる児

					童生徒。 ②流れ図の作成 ③次回のグループ研までの間、何を重点に指導・アセスメントをするのか確認する。 ④確認した内容を受けて、指導する。
	2	7/6 (水)	7/19(火)	〃	①前回の指導・アセスメントを受けて、流れ図の内容について変化や改善する点を洗い出す。 ② ①を受けて、次回のグループ研までに何を重点に指導・アセスメントをするのか確認する。 ③確認した内容を受けて、指導する。
	3	9/21 (水)		〃	○前回同様
	4	10/5 (水)	10/19(水)	〃	○前回同様
	5	11/2 (水)	11/22(火)	・発表に向けての確認・整理 ・ポイントの観点の記入	
事例発表	12/7 (水)		・資料を出すのは 全グループ ・発表は抽出 (小・中・高・訪・分校・※舎) <b>【発表グループ・発表者】</b> 本校 小学部1年グループ 奥野教諭 本校 中学部1, 2年Aグループ 土本教諭 本校 高等部2年グループ 大西教諭 本校 訪問部B病棟グループ 工藤教諭 本校 寄宿舍Bグループ 三嶋教諭 分校 小学部グループ 橋谷教諭		
研究のまとめ	2/15 (水)		・事例発表とアンケートをもとにした研究のまとめ		

#### 【研修】

合同研修	3月22日(水) 実施予定	講師 辻山しのぶ校長 「子ども達が教えてくれた大切なこと」
------	------------------	----------------------------------

#### 4 研究の成果と課題 (※事例発表後の今年度の研修についてアンケート内容より抜粋)

##### ●成果

##### 【流れ図】

「指導すべき課題を明確にした自立活動の研究のため、『流れ図』をツールとして使用したことで、課題が何なのか段階を追って見ることができ分かりやすかった。」「指導の重点を共通理解した上で、指導にあたることができた。」「複数の教員でアセスメントを行うことで、個人の思い込みではなく妥当性を担保することができた。」など、『流れ図』を使ったグループ研究を進める中で、指導すべき課題を視覚的に確認することで分かりやすく、

アセスメントに基づいた課題が明確になり、共通理解のもと統一した指導にあたることで、多くのグループが実践の成果を上げることができた。

#### 【自立活動の理解】

「自立活動＝身体」ということではなく、障がいに応じて他の区分や項目にも注目することが更に必要と考えました。」「改めて、課題が自立活動の区分・項目のどの部分に当てはまるのか意識することができた。」「自立活動の重要性を再認識できた。」など、自立活動は特別支援教育における根幹となる領域であることを再認識し、そのための6区分27項目をしっかりと押さえた上で、一人一人の教育ニーズと障がいの状態や特性に応じた指導が必要であるということを多くの教職員が意識することができた。

#### 【今年度のグループ研について】

「共通した視点に基づいて、授業改善に繋げることができた。」「小規模集団での検証→評価→実践という形がとれて日々の授業づくりや児童生徒との関わりに密接した研修だった。」「グループ内での意見交換ができアセスメントについて共有する場としていい機会でした。」「他学部や分校、寄宿舎のことを知る機会となった。」「様々な指導方法や支援について聞くことができ、見方や考え方が広がった。」「いろいろな角度から児童生徒のことについて話し合いができてよかった。」など、本研究が様々な指導方法を考えたり知ったりするきっかけとなり、本校・分校・他学部・寄宿舎の自立活動の指導について共通理解を図ることで、授業改善に繋げることができ、学校全体として自立活動の指導の充実に繋げることができた。

#### ●課題

「流れ図の中に、指導内容をいつ指導すればよいのか記載する欄があれば指導の場面が明確になる。」「児童生徒一人一人の流れ図を作成するのは、現実的に難しい。」「実態把握のため、検査結果などを上手く活用できると、より根拠や仮説の裏付けができる。」など、流れ図を有効に活用するための改善案、流れ図作成に関する作業時間や研究に要する時間の確保、実態把握のための関係機関との連携など課題が上げられた。このことについては、来年度の研究に引継ぎ課題が解決できるよう他分掌や各種委員会と連携し取り組んで行く。

#### 5 考察

今年度の研究を進めるにあたり「アセスメントを丁寧に行うことで、指導すべき課題が明確になり、論拠を持った教育活動の推進を図ることができる。」という研究仮説を立て、本研究に取り組んだ。事例発表後のアンケートや各グループの取り組みの様子から、「複数の教員でアセスメントを行うことで、個人の思い込みではなく妥当性を担保することができた。」「グループ内で情報を共有し、段階を踏みながら統一した指導を行うことで、効果的な自立活動の指導を行うことができた。」など、研究仮説に基づいた研究成果をあげることができた。今年度の成果を学校全体で共有し、今後の指導に繋げていくことが重要である。

#### 6 今後に向けて

今年度は、グループ研究をとおした自立活動の研究であり2カ年計画である。自立活動の指導について一定度の成果が見られたことから、次年度は今年度の実践を活かした授業・実践研究を推進していく。具体については、今年度中に分掌内で検討し次年度に提案する。

#### 文献

文部科学省(2018)特別支援学校教育要綱・学習指導要領解説総則編

文部科学省(2018)特別支援学校教育要綱・学習指導要領自立活動編